坂戸市立　坂戸小学校

様式3　まとめ（自己評価および学校関係者評価）

坂戸市学校評価システム

令和4年度　　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	令和5年2月1日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・教職員全体で、組織的・計画的に取り組めている。「笑顔いっぱい」の子供たちや先生方が増えてきたように感じる。 ・職員会議で今月は事故防止月間であることや、他の先生方に相談することなど積極的に情報発信しているので組織を意識しやすい。	A	・配布される「学校だより」により、学校の目標とするところの進捗状況が伺える。 ・多くの教員が組織的かつ計画的に取り組めていると実感できていることから引き続き継続されたい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・事故やトラブル等に対して、1人で抱え込まず、学年や管理職に報告・連絡・相談を行うことができている。全教職員で情報共有をする場も設定されており、組織的に対応できている。 ・組織的に動けるよう研修や定期的な声掛けができている	A	・事故やトラブルに対して組織的に対応することが徹底されており、結果として教員の安心感にも繋がっている。 ・新型コロナ対応、不審者情報等、伝達が早く、情報の共有化が迅速にできている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（共通項目）	B	・定期的に働き方改革の会議を実施し、全教職員で勤務体制の改善を検討している。 ・出退勤管理や事務の電子化、学習用端末の活用など、積極的に取り組み、勤務体制の工夫改善を推進している。	B	・仕事量が多く残業もあるようだが、少なくする方向への努力が見られる。引き続き次年度へと繋げていってほしい。 ・仕事の持ち帰りは事故にもつながり、自身の生活にも影響するのでやめた方が良い。民間でも難しい問題ではあるが、一歩一歩の改善努力をお願いしたい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 （市共通項目）	B	・教職員の授業改善のために、互いの授業を見合う機会を確保することができた。キャリア段階にあった授業研修を充実させるため、他校の研修会にも積極的に参加できた。 ・電子黒板などの活用を推進するため、研修の機会を確保していく必要がある。	B	・教員間の教え合いなど互いに研鑽する姿勢があり素晴らしいと感じる。さらに、授業展開、声がけの仕方など教員同士で共有できる機会を設けてほしい。 ・コロナ禍により、ICTの活用が飛躍的に進んだので、取り残される教員がないよう取り組みを進めてほしい。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・子どもたち一人一人の個性を尊重し、他人の意見を認め、他人の話に傾聴する授業を実践している。 ・「いじめ撲滅月間」等の取り組みを学校全体で推進している。	A	・児童の意見を尊重し、やる気を引き出す授業をされているようだ。教員間ので情報共有などにより、今後も積極的に進めてほしい。 ・複数の先生と道徳を学ぶことは、とても重要なことである。 ・自分を大切に、他人を敬う、物を大切にする心を養う授業を今後も目指していただきたい。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。 （市共通項目）	B	・挨拶は学級活動や児童会活動を活用しながら、児童が中心となって取り組んでいる。 ・教職員が児童の手本となって、挨拶や言葉遣い、時間を守ることなどをより推進していく必要がある。	B	・ほとんどの学級が学習規律を守っている。 ・挨拶に関しては「返ってこない」と感じている保護者が多く、教員からも同様の意見が多いようである。挨拶運動を他学年にも展開する等、提案があったものを順次試してみるなど抜本的な対策を講じてほしい

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 （市共通項目）	B	・定期的に新聞の情報や懲戒処分などについて、情報を提供し、教職員一人一人が意識を継続させられるようにしている。 ・倫理確立委員会の委員が交替で、毎月のチェックシート・関連資料を作成、配布、説明等を行ってきた。	A	・定期的な声掛けなどによる教員の意識付けがされており、雰囲気のよい職場づくりが進められている。 ・校長通信の中に、私生活を話題にしながら教育効果をねらった表現が見られ、みごとな指導になっている。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。	B	・学年を問わず、多くの教職員が連携し指導を行い、寄り添った指導ができている。 ・仲良しアンケートを定期的に実施し、困りごとの解決を家庭と連携して行っている。	A	・「学校が楽しい」「早く学校に行きたい」といった声が多く聞かれる。丁寧に話をしている先生がほとんどで、学校が温かい雰囲気である。 ・アンケートによって一人一人の実態を把握する等、児童の特性に合わせた対応が進められている。
	9	新学習指導要領に則って、授業改善に努めている。	B	・「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、研修を行ってきた。研修は見る視点が明確になり、児童の様子や45分間学び続けられるにはどうしたらよいか何をすればよいか徐々に学べてきた。 ・研修会を計画的に行えるよう、工夫する必要がある。	B	・研修を重ねて、改善に努めている先生が多いと感じられる。 ・研修によって改善している教員がいる一方で、研修の成果を見いだせていない教員も一定数見受けられるので、研修のねらいの共有方法などを見直しするとよい。
学習環境	10	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	・夏季休業中の研修は有意義であったため、今後も少しずつ研修を続けていく必要がある。 ・教室環境にユニバーサルデザインを取り入れており、徐々に定着してきた。継続してくよう、努力する。	A	・積極的な交流が行われていて頼もしい。 ・ユニバーサルデザインを取り入れている教室が増えてきている。 ・特別支援教育体制への意識も高く、積極的に行われている。疑問を感じている教員の声に耳を傾けるなど、さらなる充実を期待したい
	11	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・安全点検をはじめとした日常の点検により、素早く修繕等に取り組み、教育環境が整備されてきた。 ・日々の清掃活動の充実をさらに図っていきたい。	A	・定期的な安全点検と「きれいが当たり前」の心で、衛生面にも気を配り、環境整備に努力されている。 ・清掃活動にあっては、指導と共に教職員も清掃を行っている。
家庭・地域との連携	12	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 （市共通項目）	A	・マメールの活用により、防犯や学校応援団の募集等、迅速に情報を家庭に提供することができた。 ・今後も学校だよりや学校ホームページ、クラスルームを活用し、学校での児童の様子等を家庭・地域に提供し、開かれた学校づくりをさらに推進していきたい。	A	・マメールやHPなど学校全体の発信はよくてきている。一方で、情報が届いていないと感じている保護者もいるため、もっと積極的に活用してほしい。 ・学校だよりでも必要な情報が提供されている。
	13	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・今年度から徐々に学校応援団の活用が推進できた。今までになかった新しい活動も取り入れ、地域や保護者の方に教育活動の支援を行ってもらった。 ・次年度はゲストティーチャーなども積極的に活用していきたい。	B	・民生委員との情報交換会も復活して地域との連携を図っている。学校応援団に参加する保護者が少ないので、もう少し活動についてPRが必要だと感じる。 ・色々な形で地域の方の協力が必要でしょう。より積極的に多方面に依頼してもよいと感じる。
小中一貫教育	14	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。 （市共通項目）	B	・コロナ禍により、合同研修会や小中連絡会の開催が中止となっていたが、今年度は小中連絡会や中学校体験入学など、3年ぶりに開催することができた。次年度は研修会も計画していく必要がある。 ・中学校の教員が月に2回来校することにより、児童生徒の情報交換を行うことができた。	B	・中学校の合唱祭の見学など、中学校生活が実感できるうような機会があるとよい。 ・児童一人一人の情報の共有は難しいかもしれないが、小学校に伝えたことを中学校に引き継がれていないと感じる保護者は多い。保護者の中1ギャップもなくしていってほしい。